

年頭のごあいさつ

New Year's greetings



自然首都・只見の復興に向けて

只見町長 目黒 吉久

初春を迎え、謹んで町民の皆様
新年のご挨拶を申し上げます。
皆様には、輝かしい新年を迎えら
れたこととお慶び申し上げます。

昨年ほまさに災害に明け暮れた
年でありました。大雪であった長い
冬も終わろうとする三月十一日に
発生した東日本大震災そして大津
波は東北沿岸部の町を押し流し、多
くの生命を奪い去りました。

さらに東京電力福島第一原子力
発電所の事故は世界を震撼せしめ、
原発周辺町村の人々は長期に渡る
避難生活となり今なお帰郷の目途
は立っておりません。一日も早く安
心して暮らせる日が来ることを願
わずにはおられません。

本町においても、観光・商工業を
始め風評被害等大きな打撃と影響
を受けました。

さらに七月の新潟・福島豪雨は全
町的な土砂流出と大洪水を引き起
こし、ダム放流も重なり多くの住宅
や道路・橋梁・河川・農地・商工業者
店舗等かつて経験したことのない
甚大な被害を受けました。

県内外の多数の方々のご支援と
各集落の協力を始め関係機関・業者
等の方々力を結集し、応急復旧に

当たってききましたが、まさにこれか
らが本格復旧・復興の始まりであり
ます。

また、海外に目を向けますとニュ
ージーランドの大地震やタイで発
生した大洪水等、地球規模での大災
害の頻発が見られます。

政治経済においてはEU諸国に
おける財政危機の拡大は相次ぐ政
権交代を引き起こし、北アフリカ・
中東諸国は「アラブの春」と呼ばれ
る民主化の波が押し寄せておりま
す。

国政においては、次年度の予算が
示されましたが、震災復興という大
事業を抱える中、内政・外交ともに
混乱の度合いが深まっています。

このような中、町政におきましては
復興の基本理念に

一、将来にわたって安心して暮らす
ことができる安全な地域づくり。
二、活力ある社会経済の再生。
この二つを据えて取り組んでまい
ります。

特に活力ある社会経済の再生に
つきましては、その実現のために「自
然首都・只見」ブランド確立のため
の検討委員会を立ち上げました。

本町は「ブナと生きるまち、雪と暮

らすまち」を理念に復興計画を策定
し、平成十九年には、「自然首都・只
見」を宣言しておりますが、多くの
町民の参加と共通した認識の広が
りのある具体的な取り組みまでに
は至っておりません。

グローバルが進む中、今回の復旧・
復興を機に、人と自然と暮らしの関
係を見つめ直し、只見ならではの地
域としての価値を高め、築き上げて
ゆくことが大切であります。

この前提があつてはじめて集落
の地域活動や、農業を含めた地域の
担い手が育ち、只見にふさわしい農・
商・工・観光の絆も生まれてくるも
のと思えます。

保健・医療・福祉の充実について
は、常勤医師四名体制を維持すると
ともに、地域のニーズを把握しなが
ら関係機関の連携による地域包括
支援システムの構築を図ってまい
ります。

また、心配されている放射性物質
対策につきましては、線量測定器と
検査体制に十分配慮し、地元産品の
安全性のアピールと、子どもたちは
もとより健康被害に対する心配を
払拭してまいります。

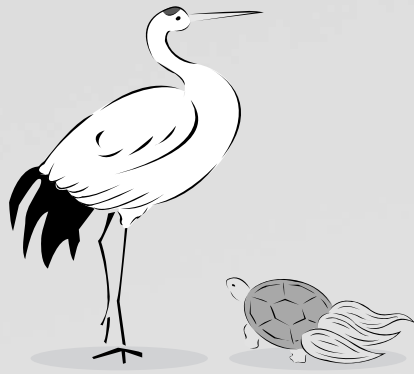
教育の推進につきましては、学力

向上とともに逞しい精神と身体を
備え、自己実現を達成できる「只見
っ子」の育成に取り組むとともに、
地域人材育成事業も順調に進み三
期生を迎えておりますが、地域との
関わりの中で新たな目標を設定し、
挑戦する人材の登場にも期待がか
かります。

役場庁舎、只見総合開発センター
及び旧只見中学校の利活用につい
ては既に答申を頂いておりますが、
今回の災害経験を踏まえ、安全・安
心な町づくり及び防災対策拠点と
しての庁舎整備の指針を明示して
まいります。

災害復旧に目途が立つまでは皆
様には不便・不安・経済的痛手が伴
いますが、職員一丸となって町民の
皆様から期待される地域復興を目
指し、全力を傾注して参る所存であ
りますので町民各位のご理解とご
協力をお願いします。

結びに平成二十四年が皆様にと
りまして素晴らしい一年になりま
すようお願い申し上げます。年頭のご
挨拶といたします。



開かれた議会を目指して

只見町議会議長 五十嵐 拓

只見町議会を代表して、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。町民の皆様におかれましては、輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

昨年は、東日本、福島県そして只見町民にとりましては、多くの苦難に見舞われるという、決して忘れることのできない年となりました。

三月十一日に発生した東日本大震災による大津波は、各地の沿岸奥深くまで達し全てを破壊し、多くの方々が被災されました。

また、東京電力福島第一原発の被害事故は想定をはるかに超え、現在も約十五万人の方が県内外に避難されています。

本町においても風評被害などの影響を受け、観光サービスマス業を始めとする町全体に大きな打撃となりました。

さらに、七月二十九日の新潟福島豪雨は、未曾有の大災害となり、本町では、大小河川等からの土砂流出や大洪水がダム放流と重なり多くの家屋・農地等に甚大な被害となりました。

町当局は、復興計画を作成し、国県と連携を図り、その対策と復旧に努力されておりますが、早期に復興が成し遂げられますよう議会と致しまして最大限対応してまいりたいと考えております。

町内外ともに厳しい状況下にあります。若者たちが魅力を持ち、活力溢れる地域社会への復興実現が、何よりも肝要であります。

国内外に目を向けてみますと、ユロ圏の財政危機は依然として改善が進まず、基金対策が課題とされるなか、タイにおける長期の水害は進出日本企業にも多大な損失となり、日本経済への影響が少なくない状況にあります。

一方、我が国の政治面では、民主党政府に変動が起き、八月に野田新首相が誕生しておりますが、「ねじれ現象」等により、多くの法案が未解決状態にあるなか、ようやく復興庁設置法が成立致しました。発足が急がれています。

町政においても、復興対策に追われる一年となりましたが、多くの方々に支えられ、「復興実現」に向けて全町民が前を向き力強く歩み始めるとともに、「希望」の火が高く明るく

燃えつづけてまいります。

灯されつづけてまいります。

このように厳しいなか町下野球場がオープンし、また、明和小学校は第二十九回福島県建築文化賞を受賞され、さらに只見町学校給食センターは初参加の第六回全国学校給食甲子園において見事入賞を果たし、学校関係者や全町民にとって大変喜ばしい吉報となりました。

只見町は、『ブナと生きる町・雪と暮らす町』の理念のもと、協働による町づくりを進めてまいりました。

「自然首都・只見」を世界にアピールすべく、認知度を高めるための事業が進められており、ブナ原生林など自然資源の保護と活用による町づくりが期待されております。

先人の教えに「健全な監視者のいない組織は、道を誤る」とありますが、このことは、公共団体、企業、組合など全ての組織に当てはまるものと思っております。

町議会と致しましては、二元代表制の一翼を担う立場として、行政を監視・牽制するとともに各般の提言を行うなど、その役割を果たしてま

いりました。

今後も「町民の皆様とのつながり」を大切にし、皆様の声に耳を澄まし、その声を施策に反映していくことが益々重要になってまいります。

昨年の三月会議から、「通年議会制度」を導入するなど、「町民が参画できる開かれた議会」を目指し、「議会改革推進特別委員会」を中心に協議を重ね、議会の改革・活性化に力を入れてまいりました。今後も、議会基本条例の制定に向けて検討を行うなど、開かれた議会の推進に取り組んでまいります。

町議会は、行政を担う両輪の一端であることを肝に命じ、皆様方の意思を尊重し、只見町の更なる発展のため精神誠意、議会活動に身を挺するとともに、地域行政発展の礎となるよう、献身の努力をする覚悟であります。

どうか、皆様の御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、本年が実り多い年であり、ご挨拶と致します。

ご挨拶と致します。